

農業技術普及に社会的アプローチが与えた影響<その3>

マーケティングの実践・作付体系の確立に与えた影響

国際耕種が2015～2021年にかかわった北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト（NUFLIP）では「市場志向型農業」と「生活の質の向上」を活動の二本柱として農家の生計向上に取り組んだ。本シリーズはNUFLIPにおいて、「生活の質の向上」という社会的アプローチが「市場志向型農業」の技術普及に与えた影響を紹介している。

マーケティングの実践に与えた影響

市場志向型農業の実践において、市場調査は最初のステップである。調査自体はいたって簡単なものであるが、実践したことがない農家にとっては、なかなか最初の一步が踏み出せないのが現状である。こういった状況ではプロジェクトが研修などを通じて、少し後押ししてあげるだけで、効果を上げることができた。市場調査研修ではジェンダーバランスに配慮して、男女ペアになってもらい、身近な市場で調査をしたが、「女性の方が、聞き取りがうまい」という話をよく耳にした。地域の市場では、野菜の売り手は主に女性であるため、同性の方が雑談をしながら、上手に必要な情報を聞き出せるようである。また、女性も市場意識を持つことで、日々の買い物の中で自然と市場情報も集められるようになったという声もあった。販売の際も、地方では女性の方が交渉上手であることが多くあった。「帰りにお酒や交友で無駄遣いをすることがないので、野菜は妻に売ってもらっている」という男性メンバーもいた。大きな市場や、地方でも取引量が多くなると、男性が主導するケースが今でも多いが、あらゆる場面で男性が主導権を握っていたかつての状況と比較すると、それぞれの長所を生かしたマーケティングに取り組んでいると思われる。

作付体系の確立に与えた影響

栽培技術を習得したとしても、既存の営農体系に組み込まれなければ、新しい作目が農家に定着することはない。NUFLIPでも、既存の営農体系に如何に換金作物としての野菜栽培を組

み込むかが一つの課題であった。この点について象徴的な出来事がプロジェクトの2年目に起きた。その農家は丁寧に圃場を管理し、植えられたトマトは順調に生育していた。ところが、収穫時期を迎えたトマトは収穫されず、赤く色づいたまま圃場に放置されていた。トマトの収穫時期がちょうどゴマの収穫時期と重なり、農家はゴマを優先させたのである。ゴマは当該地域の伝統料理には欠かせない重要な作物であるが、収益性を考えるとトマトの方が高いのだから、トマトを優先した方が利益になるわけである。しかしながら、農家の意識では自給作物の方が換金作物より優先度は高いのである。



収穫の遅れたトマト畑

この失敗を繰り返さないために重要な役割を果たしたのが「作物生産のための営農計画」の研修であっ

た。元々は、同地域で深刻な問題であった乾期の食料不足と栄養改善のために設けられた「生活の質の向上」分野の研修科目であったが、この研修で年間の農作業計画を可視化したことで、換金作物としての野菜栽培と自給のための食料作物生産の農作業の重複を避けることができるようになり、その後に実施する「野菜栽培のための営農計画」の研修の精度が高まった。これもまた当初は意図していなかった効果であり、農業技術普及に社会的アプローチがもたらした正の成果であった。

Preparation of farm plan (crop calendar)

| Crop | Expected harvest | Acreage | Crop calendar | | | | | | | | | | | | | |
|---------|------------------|---------|---------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|--|
| | | | J | F | M | A | M | J | J | A | S | O | N | D | | |
| Sorghum | 6 bags | 1.5 | | | | | | | | | | | | | | |
| Maize | 6 bags | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | |
| Beans | 2 bags | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | |
| G-nuts | 1.5 bags | 0.2 | | | | | | | | | | | | | | |
| Simsim | 1 bag | 0.4 | | | | | | | | | | | | | | |
| Cassava | 12 bags | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | |

Land preparation Sowing Weeding Harvesting



「作物生産のための営農計画」研修教材(左)と「野菜栽培のための営農計画」の様子(右)。食料生産計画を作ることで、そこに野菜生産をどう組み込むかを実践的に検討できるようになった。